

情報文化 学生瓦版

2016年8月22日
第101号

発行	情報文化学科
社主	玉田コドン
編集長	関口クロン
顧問	神部タツノ
	八木ヒレ
	山本レセ
	藤田アイビー
	齊藤スブライ
	澤登エスデル
	伯耆田スペクトル
	永田ポリメラーゼ
	ゲノム

学生企画も大好評!!



来年もお楽しみに!!

行事 第4回サイエンスセミナー
7月29日に江戸川大学でサイエンスセミナーが行われた。子どもから大人まで沢山の参加者で会場は盛り上がり、目標の500人を突破した。 2面



今年も大好評! 第4回サイエンスセミナー開催!
目標の500人突破!!



平成28年7月29日、カガク(科学)と化学を学ぶ「第4回サイエンスセミナー2016」が江戸川大学で行われた。このイベントは、親子三代で参加する来場者も多く、印象を受ける。日本コンピュータ化学会や流山市、柏市、松戸市それぞれの教育委員会の後援、近隣の中学校や高等学校の理科部のご協力をいただき、今年は参加者数500人を目指して開催した。各分野で活躍されている先生方や学生、生徒さんがそれぞれに体験展示コーナーを設け、カガクをバリエーション豊かに詳しく、そして楽しく説明して下さった。また、情報文化学科の学生は毎年人気のスライムをはじめ、ベルやスーパーボール、割れないシヤボン玉などの企画をした。

本間善夫先生の「原子」分子レシメ体分子が湧き出すビッグ・ヒストリー、お茶の水女子大学名誉教授細矢治夫先生の「分子や結晶の多面体を作ろう」、埼玉大学名誉教授の時田澄男先生の「原子軌道のガラス彫刻」、福井高専名誉教授の吉村忠志先生の「分子を作ってみよう」、埼玉大学の中村恵子先生の「分子模型『モルタロウ』で遊ぼう、原子・分子の世界」、東京工業大学の渡邊寿雄先生の「みんなのスパソコン『RUBANE』様々な事例の紹介」、豊橋技術科学大学の後藤仁志先生の「見えないタンパク質の拡張現実」、東葛飾高等学校の葛谷信治先生と生徒さんによる「科学マジック・科学クイズ」、松戸市立小金中学校の福永安祐子先生と生徒さんの「ロボカップについて」、本学科の山口敏和先生の「マイクロ波ロケットで宇宙に行こう!」電子レンジのパワーで空を飛ばそう!、神部順子先生・八木徹先生の「空と海の色の秘密に迫ろう!」の

展示が昨年と同様に行われた。どのブースも見学する人が絶えることなく、常に賑わっていた。

今回、新たに、江戸川大学情報教育研究所の青山智夫先生による「コンピュータで図を描く」に加わっていた。コンピュータと聞くとなんか難しく感じることが、青山先生は年齢に関係なく楽しめるように美しい図を描き説明してくださった。又、茨城大学高妻研究室の山口峻英先生の「食べ物の色の不思議」も新しい展示だった。体験した人は、身近な野菜から取り出した色が目の前で変化するように思わず引き込まれていった。

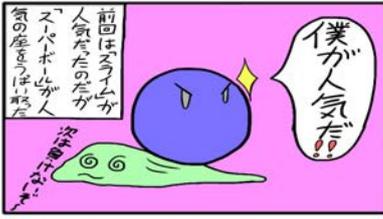
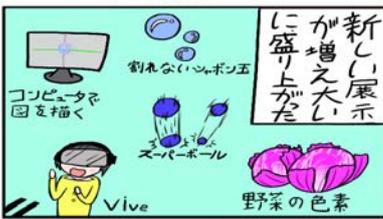
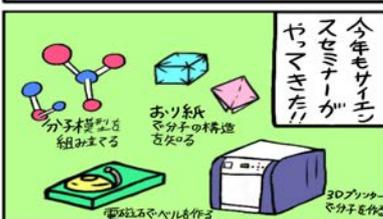
株式会社ティ・オー・エスの「Waveで海中散歩しよう!」は、整理券を配っても並ぶ列が他のブースの入り口を塞ぐほどの盛況ぶりだった。体験した人が皆目をキラキラさせているのが印象的だった。

本学科の学生企画としては、どのブースも各担当の学生が「うちが一番だ」と胸を張り、熱心に対応し長い列ができた。子どもたちは、皆嬉しそうにスライ



様々なコーナーを熱心に聞く子どもたちの様子

第4回サイエンスセミナーの巻!



作: 伯耆田 ポリメラーゼ

ムやスーパーボールなどを作っていた。今回、参加者数500人以上という目標を掲げ、いくらかプレッシャーを感じながらも見事に目標を達成した。この日は、室内でもまめに水分を摂らないと熱中症になるのではないかと、というくらい暑かった。それほどの暑さの中、来場してくださった皆様、協力してくださった先生方、理科部の生徒の皆様には本当に感謝しても感謝しきれない。

各ブースを時間ぎりぎりまで体験した子どもたちは、最後に製本コーナーで1日の学びを振り返った。誇らしげにその日学んだことを説明してくれる姿に感激した。

先生方のお話や、楽しそうにカガクを学ぶ子どもたちの姿から、勉強に向かう姿勢について改めて考えさせられた。葛谷先生は「発想すること大事だ」と仰っていた。我々も今日のことを胸に、知識を深めていきたい。来年はどんな企画が子どもたちをワクワクさせるのか、今から楽しみである。

(齊藤 エスデル)

英語でひとこと 【The only source of knowledge is experience.】

これは、ドイツの物理学者であるアルベルト・アインシュタイン(1879~1955)の言葉である。意味は、『知識は経験からのみ得られる』である。今回のサイエンスセミナーには、科学の専門分野で最先端の取り組みをされている大勢の先生方に全国各地から参加していただいた。先生方は来場した子どもたちに丁寧に、ゆっくりと科学の楽しさを説いていらっしやう。子どもたちは普段とは異なる環境で新しいことを体験していた。子どもたちのキラキラした瞳と元気な声に触発され私たちも新しいことを学び、より広い視野を持ちたいと思った。(永田 ゲノム)

子声楽語

(こせいご)

照りつける日差しの中、サイエンスセミナーの会場には暑さも気にせず目を輝かせて話を聞く子どもたちの姿が大勢見られた。今年も外部から多くの先生方をお招きし、展示や講演をしていただいた▼様々なジャンルのカガクを一度に学べるこのサイエンスセミナーは「自由研究で何をしよう?」と悩む子どもたちにとって、素晴らしいイベントになったのではないだろうか▼「なんで? どうして? なるの?」という疑問を持ち、それをはつきりと言葉にする意欲的な姿は「ノーベル賞を受賞する人がこのイベントに参加した人の中から出てくるかもしれない」という小口学長の閉会のあいさつに現実味を持たせた▼我々もこれから勉強に励んでいく中で意欲的に学ぶ姿を忘れてはいけない。先生方の講演、また来場してくれた子どもたちから沢山のことを吸収する特別な日となった。

(澤登 スペクトル)



今年も沢山の先生にお越しいただきました!!

株式会社ティ・オー・エス
最新技術に子どもから大人まで驚き!
「Viveで海中散歩しよう!」